

## ②ウキ釣りスタイル

沖のカケアグリやテトラの切れ目など、投入が必要なポイントでは遠投もできるウキ釣り仕掛けで臨みましょう。遊動式にすれば幅広いタナを探ることもできます。  
主なターゲット…ハネ・チヌ・根魚など

### 竿：磯竿1.5号5尺前後

波止回りで使うには最も汎用性が高いといえるこのクラスがおすすめです。より引き味を楽しみたいのであればワンランク下の1号、障害物回りを攻めるならワンランク上の2号でもいいでしょう。ただ、号数がアップするほど持ち重り感が増し、腕が疲れやすくなります。

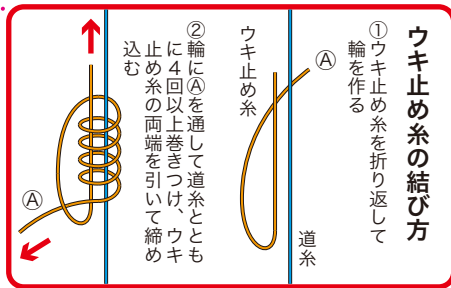
長さは最低で4.5尺はほしいところです。それより短いと、投入時にオモリが地を這って思うように仕掛けが飛ばなかったり、足もとにあるテトラなどの障害物をかわせないなどの不具合が起こります。

### 道糸：ナイロン2～3号

トラブルが少なく扱いやすいナイロンが基本（糸グセが付きやすいフロロは道糸には不向き）。号数は、細いほど遠投性や仕掛けのなじみ具合が向上するというメリットがあります。ターゲットのサイズや釣り場の地形などを考慮し、強度と使いやすさのバランスが取れたものをセレクトしましょう。

### ウキ止め

道糸にセットしたこのウキ止めを上下させることで狙うタナをかえることができます。種類は糸とゴムの2タイプ。糸タイプはいつでもセット可能ですが、ゴムタイプは仕掛け作りの際に通しておく必要があります。なお、ゴムタイプは中通しの竿のトップガイドを通り抜けないことがあるので注意が必要です。



**シモリ玉**  
ウキがウキ止めを通過しないようにするアイテムです。使用する道糸の太さに応じてサイズを選びましょう。このシモリ玉の穴はテーパード状（先細り）になっており、細い方から道糸を通します。ウキの足にあるカンにシモリベット（シモリ玉つきのスナッパサルカン）を使うときは不要です。

### ウキ止めゴム

仕掛け（ハリス部）とウキがからまないようにするためのストッパーとしてサルカンからウキの全長+約5号離れたところにヨウジで止めたゴム管をセットします。

### 中通しオモリB～1.5号

ウキのオモリ負荷に合った号数をセレクトします。形状は丸型やタル型などが一般的ですが、魚の強い引きをやわらげるクッションゴムがついたタイプを好むベテランもたくさんいます。なお、ハリスのなじみをよくするためにガン玉を打つときは、それを差し引いた号数をセレクトしましょう。

### ガン玉

潮の流れが速いときや、深いタナを狙うときなど、仕掛けのなじみをよくするために用います。極端に重い号数を打つとハリスが屈折して魚の反応が鈍るので注意。B～G 2程度をハリスの中間に打つのを基本に、軽いものを2～3つにわけて打つなど状況に応じていろいろと試してみましょう。

### リール：スピニングリール 2500～3000番

道糸を100尺ほど巻ける大きさであれば種類は問いません。小さくて軽い方が持ち重りせずに釣りに集中できます。

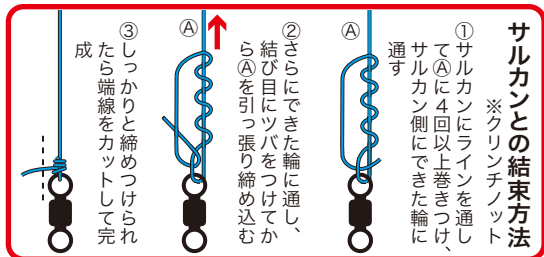
### ウキ：棒ウキB～1.5号

エビ撒き釣りでは小さなアタリをとりやすい棒ウキが主流です。風や波の影響を受けるとフラついてアタリをとりにくいという難点がありますが、水面上に出るトップの長さをガン玉で微調整することで対処可能です。

号数（オモリ負荷）は釣り場の潮流や狙いのタナを考慮して選択します。仕掛けのなじみのよさが求められる深いタナを狙うときは重いオモリが乗る負荷のウキを使うのが一般的です。2号前後はB～1号、4号以上の深場を探る場合は0.5～1.5号が目安となります。ただ、オモリが軽いほど食い込みがよくなるため、アタリが遠いときは狙うタナにかかわらず軽

### サルカン（スイベル）

道糸とハリスの接続はサルカンを用いるのが一般的。ヨリモドシともいわれるように道糸やハリスのネジレ（ヨリ）を解消してくれるアイテムです。ズボ釣りとは違って仕掛けをナチュラルに流すことが求められる釣りだけに、強度を確保できる範囲でできるだけ小さくて軽いもの（10～12号）をセレクトしましょう。



### ハリス：フロロカーボン1.5～2.5号1号前後

根ズレに強いフロロカーボンが基本。ターゲットや釣り場の状況に応じて信頼できる号数を選びましょう。ハリスを長く取るほど仕掛けが潮になじみやすいように餌をナチュラルに漂わせることができますが、カラミが多くなるなどの扱いにくさが生まれます。1号前後を基準とし、狙いのタナや魚の反応に合わせて調整しましょう。

### ハリス：エビ撒き専用バリ5～7号、メバルバリ7～8号、チヌバリ2～3号

ズボ釣りと同様です。